

いちご新品種「栃の峰」の育成

1. 試験のねらい

現在のいちご栽培は、早生優良品種「女峰」の普及により促成作型が主体で長期間の栽培となっているが、女峰では栽培後半に小玉果傾向や、食味低下の傾向が生じており、これらの時期から大果で食味の良い果実を収穫できる半促成作型への要望も多い。そこで大果で食味の良い半促成作型に適した優良品種の育成を行った。

2. 育成経過

昭和59年に系511 (Florida 69-266×麗紅) と女峰を交配し、その中から59H-4-72の系統を選抜した。昭和62年と63年の2か年間特性検定を行い、大果で食味良く、収量も安定していることが認められ、平成2年に栃木11号の系統名で現地適応性を確認した。また平成2年8月に品種登録を出願、平成4年に「栃の峰」と命名し、平成5年3月に品種登録された。

3. 特性の概要

(1) 形態的特性

草姿はやや立性で、草勢は強い。葉は大きく厚く、緑色で光沢がある。

(2) 生態的特性

花芽分化は女峰より7日程度遅く、平地では10月上旬となる。休眠は女峰より深く、5℃以下の低温遭遇時間で200時間程度が最も深い。ランナーの発生は多い。花数は少なく、頂花房での着花数は10花前後となる。

(3) 果実特性

果実は長円錐で、果実の大きさは女峰よりも大きく平均で18g程度となる。果色は濃紅色で光沢に富み、果皮、果肉とも硬い。糖度は女峰よりも高く酸度は女峰よりも低く甘酸適度で、多汁質で食味に優れる。

(4) 収量特性

収量は半促成作型では女峰よりも多収で、5月までの収量で株当たり450g以上得られる。

(5) 耐病性

うどんこ病に対しては、麗紅、女峰より強い。炭そ病に対しては女峰と同程度と考えられる。

4. 栽培上の留意点

(1) 早晚性、休眠性などの点から、年明けから収穫する作型に適する。

(2) 保温開始の適期は、半促成作型では5℃以下の低温遭遇時間で300時間前後、平年では12月上旬である。促成作型で行う場合には腋花房分化後が適期で、平年では10月極下旬である。

(3) 果実先端が着色不良となる「先青果」が発生しやすいので、多肥栽培や高温及び低温管理は避ける。

(栃木分場 植木正明)

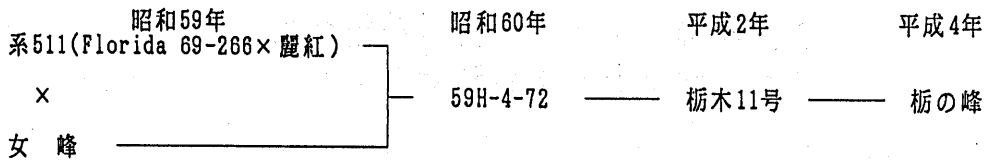


図-1 育成系統図

表-1 花芽分化

	ポット育苗	平地育苗
栃の峰	9月25日	10月7日
女 峰	9月17日	9月31日

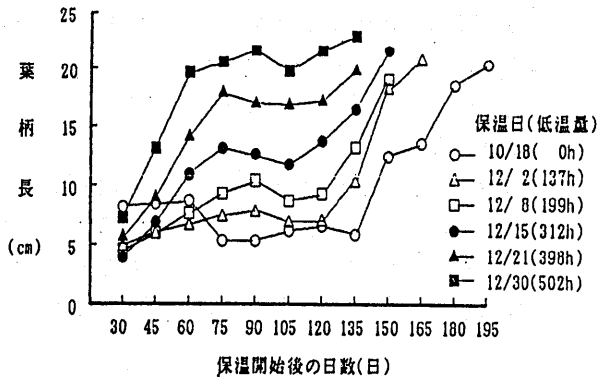


図-2 保温開始時期別葉柄長の推移

表-2 保温開始時期と収穫始期, 収量

	保温開始 (月・日)	収穫始期 (月・日)	収 量 (g/株)							一果重 (g)
			12月	1月	2月	3月	4月	5月	合計	
栃の峰	10.18	1.8	81	80	136	192	-	489	18.2	
	12.8	3.6			217	151	131	499	17.3	
	12.15	3.6			205	158	113	476	18.6	
女 峰	10.18	12.29	24	153	84	42	150	-	452	12.5
	12.15	3.7			2	217	91	118	428	12.8

表-3 果実品質

	糖度 (Brix)	酸度 (%)	硬 度 (g/φ2mm)	糖組成(%)				有機酸組成(%)		
				Fru	Glu	Suc	計	クイン酸	リンゴ酸	計
栃の峰	9.2	0.82	192	4.1	3.8	1.0	8.9	0.65	0.15	0.80
女 峰	8.7	0.90	155	2.4	2.4	2.3	7.1	0.75	0.15	0.90

注. 糖組成はFru:フルクトース, Glu:グルコース, Suc:スクロース.